

人と野生動物の適切な関係をめざして —森林動物研究センターの開設—

シカやイノシシによる農林業被害、絶滅が危惧されながらも人身事故も心配されるツキノワグマ、拡大する外来生物アライグマによる被害など、野生動物と人との軋轢^{あつれき}はますます深刻になっています。人と自然の適切な関係を目指し、これらの難題を解決するために、調査研究と技術支援の拠点として森林動物研究センターが、平成19年4月丹波市青垣町に開設されます。

野生動物の適切な管理には、正確な状況把握、計画的な施策の立案、対策を講じる人への技術支援などが必要です。県民、行政、研究者が一体となって取り組まなければいけない課題です。平成12年度から始まったセンター整備の検討は、単なる施設設置の検討ではなく、兵庫県における野生動物の保全と管理の大きな構想と仕組みづくりの検討でした。

森林動物研究センターには研究員と森林動物専門員が配置され、関係機関や課題を抱える県民と協力して、状況把握と計画立案、技術支援を行うことになっています。森林動物専門員は県農林水産部の技術職員から庁内公募で選抜され研修を受けた職員です。野生動物問題が深刻な中、このような実質的な体制整備の必要性が全国的に叫ばれてきましたが、実現するのは兵庫県が初めてであり、全国的にも注目と期待が集まっています。

人と自然の博物館では、研究員2名がセンター整備の事務局である森林動物共生室の職員を兼務して、

体制づくりの検討や専門員の研修に加え、新センター設立を待てない緊急調査や行政支援、相談対応などに取り組んできました。野生動物対策の支援は、新センターで本格的に始動することになりますが、人と自然の共生という共通の大きな目的に向けて、人と自然の博物館も引き続き新センターと連携して活動していきます。兵庫県の野生動物の保全と管理の活動に、ご期待下さい。



写真1. 森林動物研究センター完成予想図

(自然・環境マネジメント研究部 坂田宏志)